

動物の診察室から

0610

パピヨンのトッポちゃん
は、4回目の抗がん剤
を受けました。

トッポちゃんは12歳の
男の子で、今年の4月こ
ろよりうまく歩けなくな
り、抱こうとすると痛が
るようになってきまし
た。5月の末に初めて診
察した時は、右の前足は
ぶらぶらで、右目の視力
もなくなっていました。

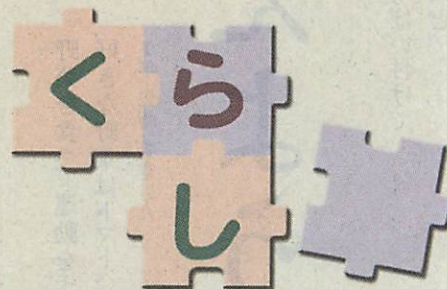
そして、その日のCT
検査の結果、脳に数個の

した。ただ、脳腫瘍を診
断してもそれを治すこと
は難しい問題です。

脳腫瘍の治療法は、大
きく分けて外科的手術、
放射線治療、抗がん剤の
投与です。そして可能なら
これらを組み合わせ
て、治療が行われます。
トッポちゃんの場合



抗がん剤投与1週間目のトッポちゃん



行います。
トッポちゃんは、抗がん
剤投与後、白血球の減
少も許容の範囲で、初回
投与の1週間
たったところか
ら症状はよく
なってきました

抗がん剤 6週間ごとに

消えた脳腫瘍

腫瘍があり、頸髄も腫れ
ていることがわかりまし
た。視力障害とうまく歩
けないのは脳腫瘍のた
め、痛がるのは頸髄の
腫脹のせいと思われるま
した。

動物の脳腫瘍は、CT
やMRIが大学病院など
で導入されるようになって、ここ数年で診断され
ることが多くなってきま

は、脳内に数個の腫瘍が
あり、部分的にも手術は
無理です。放射線の治療
は、週に1回東京へいく
必要があります。残る方
法は抗がん剤の投与で
す。トッポちゃんのおね

えさんと相談した結果、
トッポちゃんの治療は抗
がん剤の投与で行うこと
になりました。
抗がん剤と言ってもい

ろいろな薬剤がありま
す。脳には、薬物などが
脳内に入らないように血
液と脳の間に関門（血液
脳関門）があり、抗がん
剤の多くも脳腫瘍に達す
ることができません。

トッポちゃんには、脳
関門を通過するロムスチ
ンを使うことになり、早
速抗がん剤の治療が始ま
りました。ロムスチンは

内服薬で、5〜6週間に
1回投与します。

抗がん剤投与の日は朝
から入院です。副作用は
骨髄抑制で、白血球と赤
血球が下がってしまいま
す。そして、抗がん剤が
腫瘍細胞を壊してしまっ
たために、嘔吐、沈鬱など
の症状を起こす、腫瘍融
解症候群にも注意が必要
です。そのため、朝の血
液検査の後、点滴が始ま
り、お昼に抗がん剤が投
与され、夕方まで点滴を
ね！

トッポちゃんには、脳
関門を通過するロムスチ
ンを使うことになり、早
速抗がん剤の治療が始ま
りました。ロムスチンは

しかし、6週間に一度
の抗がん剤の治療は続き
ます。トッポちゃん、お
ねえさん、大変だと思っ
ます。でも、待合室の方
々も、みんな応援してい
ます。がんばりましょ
うね！

トッポちゃんには、脳
関門を通過するロムスチ
ンを使うことになり、早
速抗がん剤の治療が始ま
りました。ロムスチンは

草村 正人 (獣医師・新潟市)